

<第4308回>

目的地：廃村八丁（京都北山）

担当者：山本

実施日：2022年11月5日（土）～6日（日）

形式：テント泊縦走

費用：¥2,800.-（京阪淀屋橋発着、交通費のみ）

参加者：5名

行程：

5日（天気：曇のち晴）

出町柳駅前BS(7:50)⇒(9:37)菅原BS(9:55)→登山口(10:20)→(11:23)ダンノ峠[昼食](11:37)→(12:20)四郎五郎峠(12:20)→(13:04)刑部谷出合[刑部滝に向かうも倒木が多くて引き返す](13:15)→廃村八丁(13:40)
[17:00夕食 21:00就寝]

6日（天気：快晴）[5:00起床・朝食]

廃村八丁(6:55)→(7:59)ソトバ峠(8:17)→衣懸坂(8:45)→取り付き(8:54)→(9:10)P810(9:19)→林道(9:35)→取り付き(9:56)→(10:26)鍋谷山(10:35)→井ノ口山(10:54)→分岐(11:05)→(11:08)779m三角点(11:13)→(11:19)分岐(11:23)→(12:02)井ノ口林道出合[昼食](12:29)→P693(12:44)→(13:05)ナベ谷峠(13:10)→(13:33)H705m(13:38)→(13:50)湯槽山[片波山](14:00)→林道ゲート(14:30)→(14:38)P765への取り付き[ティータイム](15:08)→(15:53)林道入口[地藏お参り](16:06)→(16:10)大布施(16:25)→(17:33)山の家グラウンド前BS(18:08)⇒出町柳駅前BS(19:30)[解散]

感想：

菅原のバス停に降り立つと少し霧雨が降っていました。雨具を着るほどではなく、ザックにカバーを取り付けて出発。ダンノ峠迄は単調に杉の植林地を歩いていきますが、桂谷に入ると広葉樹が多くなり木々の紅葉が綺麗でした。しかし、生憎の曇り空であまり見映えがよくありませんでした。四郎五郎峠から少し急なつづら折りを下って四郎五郎谷へ。ここからは今までと違って川沿いの道を右に左に渡りながら歩いていきます。岩が濡れていて滑りやすく、二人が転んで危なかったです。途中、刑部滝を見にいこうと刑部谷に入りましたが、すぐに倒木だらけで道もどこにあるかわからず危ないので諦めて先に進みました。

廃村八丁には二時前に到着。八幡宮やお墓まで散策してからテントを設営。三年目の今回も私達だけで広いテント場を独占です。やがて晴れ間も見えてきて、のんびり時間を過ごしました。日も暮れた頃から焚き火を囲んでの夕食はやっぱり楽しかったです。

二日目は快晴でした。パバ谷からソトバ峠に上がっていきますが、二年前に通った時より道は荒れているような印象を受けました。ソトバ峠からしばらくは林道を歩きます。林道歩きは退屈ですが、視界が開けているので、山を彩る紅葉を堪能することができて良かったです。P810の手前からピークハンターさんのプレートを探しに林道を離れて稜線沿いを歩いて行きます。林道からの取り付きが厄介で灌木が多くて行く手を塞いでいました。山頂でお目当てのプレートを発見し、また林道へと戻り、鍋谷山へ向かいます。鍋谷山への取り付きは2mくらいある金網で固められたほぼ垂直な崖みたいなところを登って行きました。多分、ここを下るのはかなり危ないです。鍋谷山まで道らしい道はなく少し苦労しましたが、30分ほどで到着。ここから湯槽山までは今までと比べれば歩きやすい道が続いていました。井ノ口山から三角点へと下るとすぐ近くに伏条台杉を見ることができました。とても大きくて立派な杉でした。この後、湯槽山の南尾根まで何本かの大きな杉を見ることができました。湯槽山を下り林道が見えてきて、もうすぐ合流と思いきや突然崖になって下りることができませんでした。少し登り返して西側に赤テープを発見しましたが、道の跡は薄いし、どんどん道の崩壊が進んでいて、林道に下るのにかなりの注意が必要でした。

予定では湯槽山の南にあるP675とP704を通して大布施に下る予定でしたが、これまでの行程と道の状態から判断して日没までに下りられるかどうかわからなかったため、断念して林道経由で大布施に下りることにしました。そうなるバス時間までかなり余裕があるので、道端でしばしティータイム。それからポチポチと林道を下って大布施のバス停に到着したのがバスの時間の二時間前。ボーッと待っていても寒いだけなので、京都方面向かって歩くことにしました。しかし、これがずっと登り道だったので結構しんどかったです。結局日が暮れるまで一時間ほど歩いてバス代が80円安くなりました。